

世界の果てに

詞・曲】C・アズナブール
訳詞】古賀 力

□□□

おもく垂れこめた空にあえぐ港
世界の果てから南の香りも豊かに
白い船に見知らぬ常夏の幻の青い空と夢をのせて
陽に焼けた肌を異国の匂いとバガボンの
伊達な身なりに包みやってくる
今まで僕は寒い北国の港の
重くよどんだ空しか知らない

※世界の果てまで僕を連れてっておくれ
どこまでも続く白い砂浜と光満ちる国へ

夜は酒場でグラスをあおりながら

水夫の夢誘う話に我を忘れ

酔いしれた頭は煌く夏の光と銀色の

砂浜を描き出す

優しい女の胸の中で恋に狂うバラ色の夢に溺れる

にぎやかに水夫らが帰ったあとでも

朝まで僕は波止場に立ち続ける

※(くり返し)

子供の時から憧れたこの夢に

旅立つ船は今こそ錨を上げる

うだるような暗い船底でかまを焚きながら

油と汗にまみれ働く

遙か海原の夢の島では綺麗な娘が

花のレイを編みながら僕を待つ

声高く歌いながら旅立とう

過去の全てをこの港に振り捨て

※(2回くり返し)

ララララララララララララララララ

世界の果てに

詞・曲】C・アズナブール
訳詞】古賀 力

□□■

おもく垂れこめた
空にあえぐ港
世界の果てから南の
香りも豊かに
白い船に見知らぬ常夏の幻の
青い空と夢をのせて
陽に焼けた肌を
異国の匂いとバガボンの
伊達な身なりに
包みやってくる
今まで僕は寒い北国の港の
重くよんだ空しか知らない
世界の果てまで
僕を連れてっておくれ
どこまでも続く白い砂浜と
光満ちる国へ

世界の果てに

詞・曲】C・アズナブル
訳詞】古賀 カ



夜は酒場でグラスを
あおりながら

水夫の夢誘う話に我を忘れ
酔いしれた頭は煌く夏の光と
銀色の砂浜を描き出す

優しい女の胸の中で恋に狂う
バラ色の夢に溺れる

にぎやかに水夫らが
帰ったあとでも

朝まで僕は波止場に
立ち続ける

世界の果てまで
僕を連れてっておくれ

どこまでも続く白い砂浜と
光満ちる国

